

パンゴラグラス

1. 植え付け編

トランスバーラ

栽培利用のすすめ



トランスバーラ
#102211

2002年11月
沖縄県畜産試験場
沖縄県農林水産部畜産課

Q トランスバーラって何？

暖地型牧草でパンゴラグラス(Digitaria属)の仲間で栄養茎によって繁殖します。採草にも放牧にも使える沖縄県の奨励品種です。



生産性、栄養価ともに優れるトランスバーラ

トランスバーラは、生産性、栄養価両面において優れています。

放牧利用を想定した草高30cm、採草利用を想定した草高60cmでの刈り取り条件でローズグラスと比較すると

	草高 30cm刈りでの乾物収量 (kg/10a)							(1995年調査)
	4/20	5/30	6/28	7/31	8/28	10/2	12/6	
パンゴラグラス・トランスバーラ	182	441	321	322	472	387	357	2482
ローズグラス・カタンボラ	218	466	273	332	415	339	204	2247

	草高 60cm刈りでの乾物収量 (kg/10a)					
	4/27	6/14	7/25	9/6	11/16	合計
パンゴラグラス・トランスバーラ	478	654	631	583	613	2959
ローズグラス・カタンボラ	316	511	345	582	282	2036

	草高 30cm刈りでの栄養収量と含量 (kg/10a・年)			
	可消化乾物収量	乾物消化率	粗蛋白質収量	粗蛋白質含量
パンゴラグラス・トランスバーラ	1677	67.6%	213	8.6%
ローズグラス・カタンボラ	1346	60.0%	191	8.5%

	草高 60cm刈りでの栄養収量と含量 (kg/10a・年)			
	可消化乾物収量	乾物消化率	粗蛋白質収量	粗蛋白質含量
パンゴラグラス・トランスバーラ	1800	60.8%	213	7.2%
ローズグラス・カタンボラ	1089	53.5%	139	6.8%

このように30cm刈り、60cm刈りでもローズグラスを上まわっています。

特に乾物消化率は、牛が消化できる養分の割合を表していますが、トランスバーラは、乾物消化率60%を超える値を示しており、消化性の高い品種です。

そのため濃厚飼料が低減できます。

また、沖縄畜試における消化試験では、牛の採食量が非情に高い結果がでています。

草地造成方法

トランスバーラの種子は、発芽しません。ですからトランスバーラ草地を造成する時は、栄養茎による増殖方法で造成をおこないます。

増殖方法

増殖の方法としては、ロータリーによる鋤き込み法や茎挿し法などがあります。ロータリーによる鋤き込み法は、前もって耕起された畑に苗を10a当たり100kg程度ばらまき、浅くロータリーで覆土します。ロータリー後できればローラーで鎮圧すると活着率が向上します。また、播種する苗は、そのまま鋤きこんでもよいのですが、押し切りやカッターで20～30cm程度の長さに細断すると種苗の量が節約できます。

茎挿し法は、植え付け場所に鉄筋等で穴をあけ、その穴に苗を3本ずつ節が土壌中に入るように植え付けます。植え付けの間隔は、50cmから100cm間隔でよいのですが、密に植え付けるほど草地化が早まります。また、ポットで苗を発根させてから植える方法もありますが、広い面積分を準備するのは困難なので、欠株が出たときの補植用として利用すると良いでしょう。このように茎挿し法は、鋤き込み法より確実ですが、労力が必要となります。

ロータリーで浅く覆土します。



苗

茎の節の部分から発根しますので、若い草よりもある程度しっかりとした茎、節を持つものを苗とします。

トランスバーラ苗を散布します。



水管理

節から発根、伸張する性質を利用して増殖させるので、土壌水分が定着化の一番のポイントとなります。トランスバーラは、ジャイアントスターグラスよりも発根が遅く、2週間以上かかります。季節的には5月の梅雨時は、降雨が期待でき気温も上昇する時期なので適期と言えます。スプリンクラー等のかん水施設があれば問題ないのですが、一般的な草地ではそのような施設を望むのは無理があり、植え付けは天気を見ながらおこなう必要があります。この辺が難しいところです。

トランスバーラって
すごいんだモ～





匍匐茎が伸張している様子



トランスパーラは、緻密に再生します。

特徴・留意点のまとめ

1. トランスパーラは、栄養茎による繁殖なので、鋤き込みや茎挿しによって増殖させる点で手間がかかります。発根するまで土壌を乾燥させないようにしてください。
2. 種子繁殖の牧草に比べ、草地化までに時間がかかりますが、一旦草地化すると緊密なマットを形成し、雑草にも強いのが特徴です。
3. 乾燥にはジャイアントスターグラスより弱いのですが、水田跡のような保水性の高い圃場でも生育します。
4. マット状に細かく密生するので、ギニアグラスのような草高はなくても、収量は高いです。
5. トランスパーラは、チモシー乾草に劣らぬ栄養価を有し、また家畜の嗜好性、乾物摂取量が高く、食い込みのよい牧草ですので、購入飼料を低減できます。
6. 採草、放牧両面での活用ができ、特に子牛の育成粗飼料に最適です。
7. サイレージの発酵品質も優れています。
8. 細茎のため伸ばし過ぎると倒伏しやすく、倒れて蒸れると衰退することがあります。採草では、草高がひざの高さを目安に刈り取って下さい。

従来の暖地型牧草より管理上配慮しなければならない面もありますが、それ以上にメリットがあります。トランスパーラの良い面と欠点を理解していただいて、この牧草と付き合ってください。トランスパーラを腹一杯食べた牛のコンディションは、きっと変わります。

■問い合わせ先

沖縄県畜産試験場 飼料研究室

〒905-0426 沖縄県国頭郡今帰仁村諸志2009-5

TEL:0980-56-5142 FAX:0980-56-4803